

発行日 2010年2月8日
編集責任 さいたま市議会議員 土井裕之

tel 048-886-2858
fax 048-873-3446

E-mail doi@doih.net
HP http://doih.net

FROM EDITOR

NPO団体主催の上映会で映画「未来の食卓」を鑑賞。完全有機農業による給食の提供を決断した、フランスの山奥の自然に囲まれた農村。それまで農業により白血病やガンの被害で幾多の涙を流してきました。この決断と実行は、「未来の食卓」の先取りとなるのでしょうか。感銘を受けた私は、さっそく見沼田んぼ地域などでの実現可能性はないか、と想いを巡らせているところです。



BEFORE

- 2/1 財政自主研／自治体市長・議員等と懇談
- 2/3 議会運営委員会／会派研修「事業仕分け」
- 2/4 会派会議／会派事業仕分けPT
- 2/5 会派予算委打ち合わせ／
会派研修「情報公開」／
衆議院議員秘書らとの懇談
- 2/7 映画「未来の食卓」

AFTER

- 2/8 見沼特別委／会派会議／
市政関係者との懇談
- 2/9 会派会議／本会議初日／
武蔵浦和会館新春の集い
- 2/10 本会議2日目／生協連幹部との懇親
- 2/11 会派政策条例PT
- 2/12 盆栽国風展
- 2/13 シティサッカー／明大校友会新年会／
新政治研究会
- 2/14 武蔵浦和市民講座

編集責任 さいたま市議会議員
土井裕之

profile:

1971年、旧浦和生まれ。川口北高校卒業。1999年より浦和市議を2年勤め、3市合併の際、辞職。2003年・2007年さいたま市議に当選。2008年、明治大学公共政策大学院卒業。無所属で活動中。



所属会派 民主党・無所属の会さいたま市議団
市民生活常任委員会（委員長）

所属 議会運営委員会（理事）

委員会 決算特別委員会
見沼田圃将来ビジョン特別委員会
予算委員会（2月定例会のみ）



新市長の予算案 前年比6.72%増

清水新市長による予算案が示されました。予算委員会で審議されます。概要と私の視点を記します。

会計	平成22年度	平成21年度	増減(増減率%)
一般会計	4290億0000万0	3912億3000万0	377億7000万0 (9.65)
特別会計	1845億6700万0	1746億0000万0	99億6700万0 (5.71)
企業会計	1092億8234万7	1114億9829万0	△22億1594万3 (△1.99)
合計	7228億4934万7	6773億2829万0	455億2105万7 (6.72)

増額の主な理由は、民主党政権が新規で打ち出した「子ども手当」と生活保護費など社会保障費の急増による。市長は次の4つの柱に沿って予算編成したと言う。

- ①しあわせ倍增プラン 2009（マニフェストを踏まえた行政内部プラン）
- ②市民生活重視 ③経済活性化対策の推進
- ④徹底した行財政改革生産性の高い都市経営

私の視点

予算委員である私は、以下の視点を持って審議に臨みます。

- (1) 増額の妥当性（財源確保策など）
- (2) 前市長時代に先送りされた課題への着手
- (3) 時代の変化をとらえた予算か
- (4) 民主党・無所属の会「予算提案」の予算案への反映

★ 特に収収が100億円も減るなど厳しい財政の折。借金額は増額、貯金（財政調整基金など）は取り崩してお金を調達します。にもかかわらず、時代の変化で廃止を求められる仕事が含まれているならば、市民の理解は得られないでしょう。市長を応援した私たちだからこそ、時に評価し、時に厳しい注文をつけることができると考えています。新市長の予算案に真剣勝負で臨むものです。★

2月議会始まります 2.9-3.19

39日間にわたる2月定例会。各種調査、議案審議、採決に加えて、議員・職員との調整など、多種多様な役割が待っています。

【主に私が担う部分（2月7日現在）】

- 議会運営委員会（理事）
 - ・意見書の会派間調整
 - ・議会改革関連
- 市民生活委員会（委員長）
 - ・議案審議（委員長として運営）
 - ・消費者庁訪問
（福島みずほ大臣表敬訪問など）
 - ・盆栽関連調査（美術館訪問ほか）
- 予算委員会（委員）
 - ・補正予算（今年度）の討論
 - ・総合政策委・まちづくり委の所管部分の審査

会派研修 「情報公開日本一」に向けて

第一人者のクリアリングハウス代表奥津氏から、最近の情報公開の傾向や課題について聞いた。岡山市では、公開された文書をPDFにしてウェブサイトに掲載している。こうして請求者と市民との共有を図っている。実費額の減免など配慮する視点も必要とされる。文書作成のための補助資料である「テープ」（音声データ）は、文書化するために民間業者に預けると、市の文書という取り扱いではなくなり、情報公開の対象外となるそうで、要注意である。「モンスター請求者」の問題は深刻で、特定の職員への嫌がらせや、大量請求者・ストーカー請求といった事例も頻発している。